



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	気管吸引動作の言語化 : ICNP® version1.0 との比較
Author(s)	伊藤, 紀代
Citation	平成20年度 第26回看護研究発表会集録集, 13-15
Issue Date	2009
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/39396
Type	conference paper
File Information	colley_2009-1.pdf



気管吸引動作の言語化～ICNP® version1.0 との比較～

北海道大学大学院保健科学研究院

伊藤 紀代

【はじめに】

2005 年に日本看護協会は「盲・聾・養護学校における医療的ケア実施マニュアル」¹⁾ を編纂し、痰の吸引等、三行為の実施を、看護師資格のない特別支援学校（旧養護学校）教員に開放した。医療行為が他職種に開放されることにより、看護師の専門職としてのアイデンティティが脅かされることが懸念される。従って、何が看護なのか、あるいは看護行為なのかを早急に明らかにする必要があると考えられた。

そこで本研究では、気管吸引を扱った先行研究²⁾ を元に、既存の看護用語集である ICNP® version1.0³⁾（以下、ICNP®とする）と比較した結果、いくつかの示唆が得られたため報告する。看護行為の中でもとりわけ気管吸引に着目したのは、気管吸引には、吸引が必要になったときの緊急性、24 時間体制が必要といった特性があるためである。

【研究方法】

調査期間は 2007 年 9 月～11 月である。先行研究である「在宅障がい児(者)ケア技術に関する指導法の検討～看護師が行う気管内吸引技術の画像による分析～」で、ビデオ録画した気管内吸引関連動作を言語化した。本研究では、その結果を元に、ICNP®と比較した。比較の方法としては、気管吸引関連技術を含む 311 の言語化された動作それぞれに該当する用語を、ICNP®から探し、表 1 のような対応表を作成した。倫理的配慮として、実施前に ICNP®version1.0 の使用許諾を得た。

"The International Classification for Nursing Practice (ICNP®) is used with permission of the International Council of Nurses with acknowledgement of the following: Copyright © 2005 by International Council of Nurses, 3, place Jean-Marteau, 1201 Geneva, Switzerland. All rights, including translation into other languages, reserved. No part of this work may be reproduced in print, by photostatic means or in any other manner, or stored in a retrieval system, or transmitted in any form, or sold or licensed without the express written permission of the International Council of Nurses. Short excerpts (under 300 words) may be reproduced without authorisation, on condition that the source is indicated."

言語化された各動作に最適な単語を選択する手順の具体的な例としては、「ディスポ手袋をはめる」、「手袋をはずす」など、はめる、はずすという行為が ICNP®に存在しない場合は、手袋の英語である「Glove」を検索した。また、「吸引圧を見る」については、吸引圧の設定が正しいかどうかを判断するという意味で、ICNP®の 7 つある軸（Axis）のうち、Judgement という軸に該当する用語を探した。しかし、適当な語がなかったため、Action の軸にある「Checking」を選択した。

【結 果】

結果の一部を表 1 に示す。311 記録単位中、該当した用語は 216（69.45%）であった。以下、用語の範囲、抽象 - 具体レベル、ICNP®軸別比較の順に述べていくこととする。

1. 用語の範囲

ICNP®の用語の「Glove」には、「ディスプレイ手袋をはめる」、「手袋をはずす」など、単独では看護行為ではない行為が含まれた。吸引チューブ（SC チューブ）や三方活栓、アルコール綿など、器材に関する用語に該当語が認められないものもあった。

「吸引時間の長さに注意する」、「SC カテーテルの挿入の長さに注意するなど」、「Duration（時間の長さ）」、「Catheter（カテーテル）」の長さの長い、短いという判断（Judgement）が混在する例も認められた。気管吸引には、鼻腔吸引や口腔吸引が随伴する場合も多いが該当語はなかった。

2. 抽象 - 具体レベル

ICNP®では、吸引という行為全体を「Suctioning」または「Aspiration」としていた。ICNP®の定義によると「Suctioning」と「Aspiration」の用語の違いによる意味内容の違いはなかった。

「Catheter」には、SC チューブとの接続、SC カテーテルの挿入の長さに注意する、ねじるように挿入する、どこにも触れないようにする、吸引前後に SC カテーテルをアルコール綿で拭く、吸引前後に SC カテーテル内に水を通す、SC カテーテルを SC チューブからはずす、SC カテーテルを紙コップに戻すという 10 動作が含まれた。

3. ICNP®軸別比較（表 2）

ICNP®は、Focus、Judgement、Means、Action、Time、Location、Client という 7 つの軸（Axis）に各用語を分類している。各言語化された動作に該当した ICNP®用語の、7 軸別の登場回数を表したのが、表 2 である。

方法や手段を意味する用語が分類されている「Means」が約半数

表 1 ICNP®version1.0 との対応表(一部)

言語化された動作	ICNP version1.0
ディスプレイ手袋をはめる	Glove(10008487)
手袋をはずす	Glove(10008487)
SC チューブをフックにかける	null
SC チューブを持つ	null
三活を開く	null
吸引圧を見る	Checking(10004189)
SC カテーテルを SC チューブにつなげる	Catheter(10004087)
個別包装になったアルコール綿を開ける	null
アルコール綿を取り出す	null
アルコール綿が入っていた包装を捨てる	null
SC カテーテルを気管内チューブに挿入	Suctioning(10019038)
SC カテーテルの挿入の長さに注意する	Catheter(10004087)
吸引時間の長さに注意する	null
SC の電源を入れる	Suction Apparatus (10019029)
SC カテーテルをねじるように挿入する	Catheter(10004087)
SC カテーテルがどこにも触れないようにする	Catheter(10004087)
三活を閉じる	null
SC カテーテルをアルコール綿で拭く(吸引前)	Catheter(10004087)
SC カテーテルをアルコール綿で拭く(吸引後)	Catheter(10004087)
SC カテーテル内に水を通す(吸引前)	Catheter(10004087)
SC カテーテル内に水を通す(吸引後)	Catheter(10004087)
電源を切る	Suction Apparatus(10019029)
SC カテーテルを SC チューブからはずす	Catheter(10004087)
SC カテーテルを紙コップに戻す	Catheter(10004087)

() 内はコードナンバー

表 2 ICNP®軸別登場回数

Focus	53	24.53%
Judgement	0	0.00%
Means	107	49.53%
Action	45	20.83%
Time	0	0.00%
Location	11	5.09%
Client	0	0.00%
Total	216	100%

を占めた。次いで看護における注意の焦点となる「Focus」、クライアントに提供される意図のある過程である「Action」が多い順となった。先行研究において、対象が重症心身障がい児（者）であり、調査時間も日中のみであったため、「Judgement」「Time」「Client」の軸に含まれる語はみられなかった。

【考 察】

1. 用語の範囲について

気管吸引には、鼻腔吸引や口腔吸引が随伴するケースも多かったが、ICNP®に該当語が見られなかった。従って、「吸引」という言葉が時折含む、全ての行為を「吸引」というひとつの用語で済ませてしまうのは、新人看護師や異なる文化・教育背景を持つ看護師との誤解が生じる危険性があると思われた。そのため、吸引を養護学校教員に指導する場合、専門用語やその定義の存在は、看護行為の範囲に関する基準の制定に有用と考えられる。しかし、この基準は、マンパワーの地域格差や時代の変化等を考慮した柔軟性のあるものが望ましいと思われる。

2. 抽象 - 具体的レベルについて

ICNP®の用語が、先行研究よりも抽象度が高かった。ICNP®では、吸引行為全てを「Suctioning」と定義していたのに対し、本調査では吸引の定義を「SC カテーテルを気管内チューブに挿入」する行為に限定したためと考えられる。また、動作を細分化した過程で、ディスポ手袋の着脱等の看護行為とはいえない動作が出現した。このことから、ある目的を持った行為の全体が「看護」、「看護行為」を形成していると考えられた。今後は、どのような条件下で、これらの動作の集合が「看護」になるのかといった検証の必要性があると思われる。

3. カテゴリー別分類について

ICNP®では、一連の吸引行為を「Suctioning」と定義しているため、該当語がない場合もあったが、約 7 割の吸引動作について「Means」「Focus」「Action」の 3 つの軸に分類できた。従って、吸引という看護行為は、カテーテルの操作、吸引圧の設定といった専門的知識や技術を要する動作とそうでない動作の両方で構成されるといえる。吸引動作中の 7 割を占める、専門性を必要とする動作を省略・簡略化する技術開発により、吸引がより安全な技術になる可能性があると思われた。

【おわりに】

限定された技術を提供できることが「看護」ではなく、ある目的を持った行為の全体が「看護」を形成すると考えられる。しかし、安全な吸引に必要な技術範囲は広く、吸引の技術範囲に関する法的検討、簡便な吸引技術の開発が課題と思われる。

【引用文献】

- 1) 日本看護協会：盲・聾・養護学校における医療的ケア実施対応マニュアル，
<http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/seisaku/pdf/mourouyou.pdf> (2008 年 12 月 5 日閲覧)
- 2) 伊藤紀代，佐藤洋子，森下節子：在宅障がい児(者)ケア技術に関する指導法の検討～看護師が行う気管内吸引技術の画像による分析～，看護総合科学研究会誌，10(2)，p 43，2007
- 3) International Council of Nurses(ICN)：International Classification for Nursing Practice (ICNP®) version1.0，2005